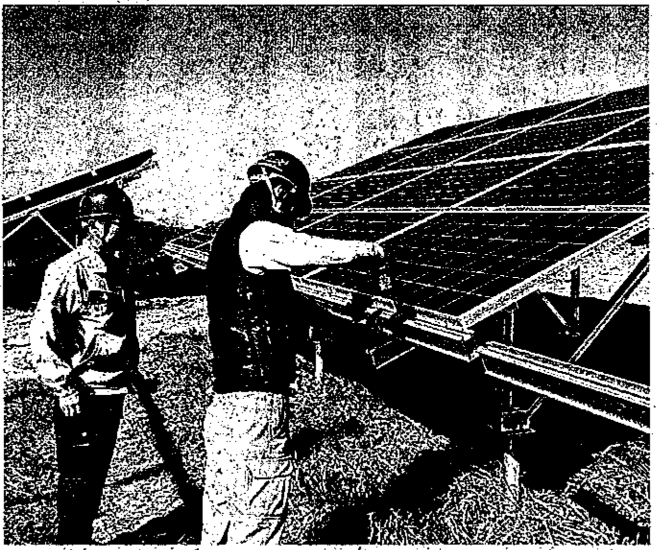
住田にメガソーラー

大船渡のケセンエナジー

架台に地元産気仙杉

12月末稼働 林業振興に期待

再生可能エネルギー事業を手掛ける大船渡市赤崎町のケセンエナジー（篠村浩二社長）は住田町上有住の町有地に大規模太陽光発電所（メガソーラー）を建設する。12月末の稼働予定で、太陽光パネルを支える架台は県内初の木製架台とし、地元産の気仙杉を使用する。２０１１年12月に気仙3市町が選定された環境未来都市計画に沿った取り組みで、地元密着や林業振興への貢献が期待される。



太陽光パネル設置工事を見守る篠村浩二社長（左）。12月末の稼働を見込む＝住田町上有住

計画では町有地など5㌶を借りて建設する。最大出力は約2千㌔㍗、年間発電量は一般家庭約９００世帯分に相当する約３１２万㌔㍗時を想定し、東北電力に売電する。総事業費は約6億円を見込む。7月中旬に本格着工し、現在は半分程度までパネル設置を終えた。

気仙杉を使った木製架台はパネル約1万1千枚のうちの4割、約１４０立方㍍使用。全国では兵庫県や福島県などで木製架台の取り組み例はあるが、地元産木材の利用は珍しい。一般的なアルミに比べて1・2～1・5倍割高だが、地産地消を積極的に推進する。防腐処理し約20年の耐久性能を見込んでいる。

同町の多田欣一町長は「（木製架台に）町産材が使われるのは大歓迎だ。こうした取り組みから国産材の使用法が広がり、木の良さに目を向けてもらえるようになればいい」と語る。

同社は地元企業によるメガソーラー事業の展開を目指して昨年8月に設立。国や自治体の補助金はなく、接続可能量を超えた場合に東北電力の要請で無補償、無制限の出力抑制を受ける事業のため資金調達に苦慮し、昨年12月稼働の当初計画変更を余儀なくされた。

資金は東北銀行（村上尚登頭取）が三菱東京ＵＦＪ銀行（小山田隆頭取）と協働し4億８６００万円のシンジケートローン（協調融資）を組成。地元からの出資やメガソーラーの施工実績がある恒電社（埼玉県伊奈町）、太陽光発電事業の資金調達を支援するエンブルー（東京都千代田区）の協力を得た。

篠村社長は「エネルギーも地元でつくり、地元で使う時期に来ている。少しでも復興推進の後押しになればいい」と意欲を示す。